



水路に沿った植林の実施

(特非) 環境修復保全機構

カンボジア王国クラチェ州における 自然資源管理と有機農法を軸とした 持続可能な農村基盤づくり

ESDスクールへの
延べ参加者数 196人

自然資源管理に係る
ワークショップへの
延べ参加者数 122人

活動の全体目標に
対する達成度 40%

一般助成

1年目

実践

課題

経済性のみに重点を置いた農業開発により、自然環境や生物多様性が急速に失われており、さらに過度の化学肥料の施用により、土地生産性の低下を引き起こしている。

活動内容

- 持続可能な開発目標(SDGs)の普及を目指して月に1回ESDスクールを開催し、延べ196名の参加を得た。
- 森林の管理手法及び森林管理のための人材及び組織づくりに関するワークショップを年に4回開催するとともに植林活動も行った。
- 有機農法(堆肥や液肥、生物起源農薬等の作成・施用)に関するワークショップを年に4回開催した。さらにモデルファームを2箇所設置し、有機農法の普及拠点として活用した。



ESDスクールでの指導員と参加者

今後の課題

初年度は参加者が限定的であったことから、より多くの現地住民が活動に参加できるように村内におけるプロモーション活動を実施し、ESDスクールのみならず各種ワークショップへの参加を促していく。

成果と工夫した ポイント



成果

村内に2箇所のモデルファームを設置したところ、7ヶ月間で102名の訪問者があった。そのうち25名は資材配付を受けていない一般農家であったことから有機農法への関心の輪が村内で広がりつつあることが確認された。

工夫

現地住民からの強い要望で追加の活動(フクロタケの栽培技術)を実施し、自然資源管理等の意識を高めた。